

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 11 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008~2011

課題番号：20730131

研究課題名 (和文) 長期的関係下のインセンティブ契約

研究課題名 (英文) Incentive contracts under long-term relationship

研究代表者

花菫 誠 (HANAZONO MAKOTO)

名古屋大学 大学院経済学研究科・准教授

研究者番号：60362406

研究分野：産業組織論、契約理論、ゲーム理論

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：長期的関係、関係的契約、インセンティブ、情報、交渉

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、長期的関係を根拠とした信頼や評判に基づく取引関係の理解を深めることにある。理論分析を通じ、効率性等の観点から望ましい契約の形態について研究し、最適なインセンティブ契約のデザインへの貢献することを目標とする。

本研究では、これまで十分に論じられることの少なかったフォーマルな契約と関係的契約のトレードオフや相互連関を明示し、最適インセンティブ設計の分析を行う。また、長期的関係下のインセンティブ契約に関連するゲーム理論的な論点についても合わせて研究を行う。

2. 研究の進捗状況

(1) 長期的関係下、すなわち、関係的契約を書くことができる環境において、フォーマルな契約の執行のためのモニタリング精度を高めることには、二つの相反する効果があることが分かってきた。一つ目は、事後的な虚偽報告の範囲を狭め、効率性を高めるという直接的な効果である。他方、モニタリング精度の向上は、長期的信頼関係に基づいて協力している時の利益だけでなく、協力関係が崩れた際に得られる利得をも高める。結果として、関係的契約において重要な「裏切った際の処罰の大きさ (= 協力時の利益 - 協力が崩れた際の利益)」を下げ、協力を維持しにくくするという間接的な効果をもつ場合がある。現在、フォ

ーマルな契約と関係的契約のトレードオフや補完性についての理解を深めるために、これらの効果の大きさを左右する重要な変数は何かという点について理論的な研究を継続中である。

(2) フォーマルな契約を書く物理的なコストが持つ意義については、優良なエージェントであることのシグナルとしての役割を担っているという観点から研究を継続している。

(3) また、本研究課題に関連するゲーム理論的な基礎研究として、適切な契約内容の選択のために必要な情報の集約が契約締結時に行われるかに関する研究を進めている。契約内容の収益性を左右するような情報について、契約の当事者が各々不完全かつ部分的な情報を持つ場合を想定する。適切な契約内容の選択や適材適所の達成のためにはそれらの情報を集約することが不可欠である。このような状況下で情報を集約した合意形成が行われるかについて、交渉ゲームを用いて分析を行っている。これまでに、交渉における利益分配の方法の違いが効率的な合意形成に影響を与えるという結果が得られている。従って、長期的関係下の契約を締結する場合においても、各々の情報を有効に活用するためには、契約締結時の利益分配の方法を工夫する必要があることが明らかになってきた。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

進捗状況は上記 2. で述べた通りであるが、研究成果の発表が 22 年度まで行われなかった。この点で現状では達成度が低いと言わざるを得ないが、しかし、23 年度中にはこれまでの研究について（特に (3) の内容）、海外で複数回の学会報告の予定が決まっており、成果が実りつつある。

4. 今後の研究の推進方策

(1) これまでの研究で得られつつある成果については、今後予定されている海外での学会報告 (Econometric Society European Meeting, Society for the Advancement of Economic Theory Conference など)、またその際の有識者との意見交換を通じて研究の質を高める。

(2) 申請時の研究計画で述べたように、研究の遅れている部分については内外の関連する研究者との意見交換を行い、論点を整理し成果をできるだけ早く結実できるように最大限の努力を行う。また、関連する研究者の集まるセミナー等での報告の機会を打診し、幅広い観点から研究についての意見を得られるように努める。

(3) 研究論文については年度の後半に学術雑誌に投稿を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

現時点での研究成果はなし